

地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 IMA 小委員会

(第 26 期・第 4 回)

議 事 要 旨

1. 日 時：令和 7 年 5 月 23 日（金）18:00～19:00
2. 会 場：オンライン会議（Zoom）
3. 出席者：大谷栄治・土屋旬・西山忠男・阿依アヒマディ・井上徹・入船徹男・
越後拓也・大藤弘明・鍵裕之・小西博巳・辻森樹・土屋卓久・富岡尚敬・
永寫真理子・福士圭介・森下知晃・門馬綱一
(名簿順、敬称略)

4. 議事概要

- (1) 第三回 100Geological Heritage Sites の申請と第四回申請の準備について
(Heritage Stones, Geo-collection について)

土屋旬氏より、第 3 回申請（締切：5 月 31 日）に関して、申請準備の進捗状況について報告があった。本申請は糸魚川のヒスイを対象としており、現在、申請書の完成に向けて最終調整を行っている段階である。（なお、本申請は 5 月 27 日付で提出済みである。）

審査は年内に行われ、結果は来年中に発表される予定である。また、今後のスケジュールについても併せて説明があった。

第 4 回申請については、次回の小委員会で協議する予定。あわせて、Geo-collection に関しても申請対象として検討することとし、門馬委員・西山委員・阿依委員より複数の候補が挙げられた。具体的な候補については、今後さらに調査・整理の上、検討を進める。

- (2) IMA2026南京セッション提案について

IMA2026 南京大会に向けたセッション提案に関し、提案用ウェブサイトおよび申請手続きの詳細について情報交換を行った。提案には事前のユーザー登録が必要であり、2 段階認証のコード入力方法についても情報が共有された。

セッション提案の締め切りは 8 月 30 日であり、委員各位に対して積極的な提案の検討を呼びかけた。

- (3) 日本学術会議主催学術フォーラム開催について

土屋委員長より、国際連携分科会主催の学術フォーラムが7月12日（土）に開催される予定である旨の報告があった。フォーラムの趣旨やプログラムについて情報共有を行った。また、同フォーラムにおいて、IMA 小委員会を代表して土屋委員長が IMA の活動について紹介を行う予定であることが併せて報告された。

紹介内容については、大谷委員、西山委員より環境問題や社会貢献に関する取り組みなどの事例を取り上げることが有益ではないかとの助言があった。

(4) 各コミッション・ワーキンググループ報告

博物館委員会(CM) 報告：坂野氏（代理報告：土屋委員長）

2024年9月および2025年4月に、IMA 博物館委員会（IMA-CM）のWeb会議が開催された。

この中で、国際会議「Mineralogy and Museums (M&M)」の開催申請に関するガイドラインの更新案が提示され、M&M11を2027年に開催（EMCとの重複回避）する案が議論された。これに対し、コメント提出と投票がメールにて実施され、最終的にガイドラインが承認された。これを受け、M&M11（2027年）開催地の提案募集が開始された。

また、以下の IMA-CM のボードメンバー人事についても投票が行われ、承認された：

- Chairperson: Dr. Melanie Kaliwoda
- Vice Chairperson: Dr. Paula Piilonen
- Secretary: Mr. Oskar Lindenmeyer

M&M11 開催候補地として北米から複数の提案（ミシガン州、オタワ、メイン州ベルテ）があり、4月中の投票が求められた。JAMS 博物館委員会内で意見を集約し、オタワへの投票を行った。

鉱物物理委員会(CPM) 報告：土屋委員長

CPM では国際会議における鉱物物理関連セッションの後援活動を進めており、直近では JpGU にて5つのセッションに対し、メーリングリストを通じた投稿呼びかけなどの後援を行っている。

また、年内に CPM 主催のレクチャーシリーズを開始する計画があり、その準備として独自のメーリングリストおよびウェブサイトの立ち上げが進められている。

新鉱物命名委員会(CNMNC) 報告：門馬委員

新鉱物の承認手続きに関する見直しとして、これまで「3分の2以上の賛成」で承認されていた事項が、「4分の3以上の賛成」に変更された。

また、新鉱物の命名に関連して、国際誌における編集対応が問題となった。具体的には、CNMNC の正式な承認を経していない個人の見解が、事実であるかのように論文として掲載された事例が指摘された。これを受けて、新鉱物の命名に

関する論文は必ず CNMNC の審査を経た上で出版されるべきであるという基本方針を改めて確認し、国際誌の編集委員に対して注意喚起が行われたとの報告があった。

また、正式に承認されていない略称が「オーソライズされた」として使用・出版される例があり、命名規約に対する理解不足が問題となっていることが大藤氏より指摘された。

ナノ鉱物学 WG 報告：福士委員

7月にイタリアで行われる会議において、来年の IMA2026 総会のセッションについて話し合われる予定である。

(5) その他

以上